

2013年6月5日(水)午後1時30分～午後4時
栃木県総合文化センター
栃木県・宇都宮市

国際協同組合年の取り組み



昨年 2012 年は国連が定めた国際協同組合年で、栃木県においても 2011 年 9 月、12 団体で国際協同組合年栃木県実行委員会を設立しました。協同組合の価値や役割を県民に知っていただくために、2011 年 12 月 17 日に「国際協同組合年記念講演会」、2012 年 6 月 23 日に「協同まつり」、12 月 5 日には「協同組合交流会」の記念事業をすすめてまいりました。また栃木県生活協同組合連合会が独自で次世代のリーダー育成のための「国際協同組合年ワーキングチーム」をつくりました。今回は「協同組合交流会」と 1 年間の締めくりである「国際協同組合年ワーキングチーム報告会」の様子を紹介いたします。

協同組合交流会

2012 年 12 月 5 日、宇都宮東武ホテルグランデにおいて栃木県実行委員会を中心に行政関係者、学識者、報道関係者を交えて、事例報告会、懇親会のⅡ部構成で開催されました。現代社会の課題について各団体の取り組みが報告され協同組合間の共通認識と交流の場となりました。

● 事例報告の内容

JALもつけ	JA と農 業 生 産 法 人 と の 協 同 による 地 域 の 活 性 化 について
JA 栃 木 青 年 部	JA 栃 木 青 年 部 連 盟 の 活 動 について (日 本 の 農 業 は 俺 達 が 創 る)
JA お や ま 女 性 会	女 性 会 の 輪、そ して 心 の 絆
栃 木 県 森 林 組 合 連 合 会	森 林・林 業 再 生 に 向 け た 森 林 組 合 の 役 割
全 労 済 栃 木 県 本 部	国 際 協 同 組 合 年 に お け る 全 労 済 栃 木 県 本 部 の 取 り 組 み について
と ち ぎ コー プ 生 協	栃 木 県 生 協 連 の く ら し 部 会 の 活 動 報 告、と ち ぎ コー プ の 組 合 員 活 動 報 告
栃 木 保 健 医 療 生 協	生 協 連 内 の 国 際 協 同 組 合 年 ワー キング チーム の 活 動 と 医 療 生 協 の 取 り 組 み 報 告



国際協同組合年ワーキングチーム報告会

2013 年 3 月 14 日、福祉センターにおいて行政関係者を交えて開催されました。2011 年 8 月に発足した国際協同組合年ワーキングチームは、これまで月 1 回 17 回の学習会を実施しました。その場は協同組合の理念や原則についての学習と合わせて各団体の日頃の取り組みが報告され、参加者自身の仕事に反映される方法で進められました。相互理解を深めるとともに自生協を振り返り、今後のあり方を考える機会となりました。国際協同組合年の期間だけで終わらずに、今後も継続していく必要があることを確認しました。



回	学習会内容 共通テーマ：協同組合の役割と未来	学習会参考文献
1	国際協同組合年に向けて・賀川豊彦献身 100 年から農協の歴史と課題	・協同組合の役割と未来 (家の光協会) ・協同組合憲章草案 (第 1 次案)
2	全労済栃木県本部の歴史と理念 とちぎコープ生協の歴史と理念 経営組織における理念の重要性	・2012 国際協同組合年てなあに ・協同組合憲章がめざすもの
3	栃木県学校生協の歴史と理念 生活クラブ生協の歴史と理念	・21 世紀の新協同組合原則
4	栃木県職員生協の歴史と理念 よつ葉生協の歴史と理念	チームメンバー (9 会員 11 名) 助言者：宇都宮大学 農学部 原田 淳 准教授 宇都宮大学農学部 神代英昭 准教授 会 員：栃木県学校生協 栃木県職員生協 生活クラブ生協・全労済栃木県本部 とちぎコープ生協・よつ葉生協 栃木保健医療生協・ふれあいコープ とちぎ労働福祉事業団
5	栃木保健医療生協の歴史と理念	
6	ふれあいコープの歴史と理念 フードシステムについて	
7	とちぎ労働福祉事業団の歴史と理念	
8	2012 国際協同組合年てなあに	
9	協同組合の源流について	
10	協同組合憲章草案	
11. 12	協同組合憲章がめざすもの	
13	栃木県若年者支援機構の取組み	
14~17	協同組合原則等から見た自組織の 2012 年度上期のまとめ	

東日本大震災支援の取り組み

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から 2 年が経過しました。

栃木県生活協同組合連合会では、これまで被災地への物的人的支援をはじめ、いわき市四倉中核工業団地仮設でのお茶会、福島から避難されてきた方を対象にしたふれあいお茶会、また放射性物質の安全性に関する学習会を行ってまいりました。今回は「ふれあいお茶会」と「食の安全安心とちぎ消費者セミナー」の取り組みを紹介いたします。

「ふれあいお茶会」

2011 年 6 月から栃木県生協連、社会福祉法人ふれあいコープ、NPO 法人ウィズの 3 団体で開始したふれあいお茶会は、今年 5 月で 21 回を数え延べ 500 人の参加がありました。この間、福島県避難者支援課、福島県就職応援センター、とちぎ暮らし応援、とちぎ労働福祉事業団の協力を得たことで暮らしの困りごと等の情報を数多くお届けすることが出来ました。また避難者の方々の声をまとめ福島県に要望書として提出し回答も得られました。毎回スタッフが作る軽食は好評でおしゃべりには欠かせないものとなり、昨年の 12 月には会場となっている特別養護老人ホームみどりの施設の方々とクリスマス会を行い、入居者の皆さんと歌やゲームを楽しみました。また 3 月にはとちぎテレビ「東日本大震災とちぎ復興・復興の記録」の特集番組に、これまでのお茶会の歩みや避難者の方々とスタッフの交流の様子が放送されました。

避難生活が長期化する中で、他県へ引っ越し新たな生活を始める方もいらっしゃいますが、未だ引きこもっている方、孤立している方がいると聞いています。これからも避難者の方たちのつながり場として継続していくこととしています。



2012 年度「食の安全安心とちぎ消費者セミナー」の報告

2011 年 3 月 11 日の原子力発電所の事故発生直後から、食の安全ネットワーク (構成：食品企業、百貨店、消費者団体、生協、JA 等、13 団体) は、放射性物質の問題について県民の方を対象とした学習会を続けて参りました。

2012 年度に入ってから学習会は栃木県からの委託を受けて、消費者セミナー事業として 10 月から 3 月までの 6 ヶ月間に渡って、延べ 20 会場で開催することになりました。そして、このセミナーを開催するにあたっては、次の 3 点を確認し、大切にしました。

1. 子育て層、男性など、この様なセミナーに参加し難い方々が参加出来易いようにする。
2. 質問し易くする。
3. 参加した方達が科学的に考え、判断出来るような内容にする。

食の安全ネットワークに参加している団体の中で、今回の消費者セミナーを開催することになった各団体は、それぞれが持つ個性を生かして目的を達成する事が出来ました。

こうして県内各地でセミナーを開催してきた事で、まだまだ放射性物質に対する理解が不足しており、リスクコミュニケーションが発信者側の認識とは異なっており、現場、つまり受けて側では未だ不十分であるという事を実感しました。

参加者 (1,774 人) からのアンケートでは、1,103 人からの声が集まり、約 9 割の方が参考になったことが寄せられました。

以上のような教訓は、今後の活動に引き継いでいくこととしています。



参加者アンケートの結果

